

8. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のボランティア・NPO活動センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やメールマガジン、SNSなどでの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたり、そのためには幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことから、ボランティア・NPO活動センターでは、ボランティア活動を推進していくために、社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへさまざまな研修の機会を提供しています。

事業名	2018年度オリエンテーション合宿 一狩り行こうぜ！！ボラセンワールド～みんなが主役、みんなが仲間～（継続企画10年目）
日時	2018年6月9日（土）12時00分～6月10日（日）15時30分
場所	龍谷大学深草キャンパス
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
参加人数	学生スタッフ90名（1日目 79名・2日目 65名 各日それぞれ参加）
企画メンバー（学生スタッフ）	吉田 響（文学3） 玉田遼河（社会3） 加藤翔汰（農学3） 奥村 遥（社会2） 田井拓暉（社会2） 川村有希（政策2）

1. 経緯・目的

オリエンテーション合宿は、新学生スタッフがボランティア・NPO活動センター（以下、センター）での活動を理解し、体感する場である。一方、上回生スタッフにとっては今までの活動の振り返りや、今後の活動について改めて考えるためのものである。今回のオリエンテーション合宿は、特に以下の4つのことを目的として行った。

- (1) ボランティア活動及びセンターの活動を理解、再認識する。
- (2) この合宿を通して、深草・瀬田の学生スタッフ同士や、学生スタッフと職員の交流を行う。
- (3) 一人ひとりの苦手意識を認識し、みんなで考えあうことで新たな自分を見つけるきっかけにする。
- (4) みんなで1つのものをつくり上げることで団結力を深め、楽しさを見つけるきっかけにする。

2. 概要

〈1日目〉

12：00 集合

12：30 開会式

12：45 コミュニケーションワーク

「殻を破らずんば きっかけを得ず」

コミュニケーションについて、初級・中級・上級の3段階に分けてワークを行った。

初級編：色々な人に話しかけつつ、初対面の時の不安を和らげられるようなワークをした。

中級編：3人グループで、3つのテーマの中から一つを選び、ブレインストーミングをした。

上級編：6人グループで、話し合いの中からお互いの意見を一致させる合意形成ワークをした。

16：15 センター理解

18：00 交流会

20：00 解散

〈2日目〉

10：00 集合

10：30 コーディネート+ a ワーク



「求めよ しからずんば 与えられん」

以下の3つのワークを行った。

- ①アイスブレイクで大学敷地内の写真を撮りに行ってもらった。
- ②新スタッフにはコーディネートのことを知ってもらい、上回生には自分のコーディネートについて考えてもらうための模擬コーディネートを行った。
- ③アイスブレイクで撮ってきた写真に応じて社会問題の写真を渡し、「原因」「問題」「解決策」「自分たちに起こせるアクション」について考え共有し、情報の大切さや真偽の確認の大切さに気付いてもらった。

13:30 昼休憩

15:00 まとめワーク

「飛び出せボラセンワールド」

2日間の合宿の様子をスライドショーで見てもらい、今回のオリエンテーション合宿を通して感じたことについてグループで共有した。

16:30 クロージング

17:00 解散

3. 参加者の声・得られた効果など

○コミュニケーションワーク

- ・コミュニケーションを体感しながら、重要な要素を学ぶことができたので、とても良かった。また初級、中級、上級と段階を踏んで考えることができて良かった。
- ・周りの意見を聞きつつ、自分の意見も言って合意形成していくことの難しさを改めて実感した。もっと自分の思いを周りに伝えられるように頑張りたいと思った。
- ・簡単な話題だったので、話し合いに取り組みやすかった。会場が話しやすい雰囲気になっていて、いつもはためらうことも多い発言も、このワークでは自然にすることができた。

○コーディネート + a ワーク

- ・模擬コーデをやってみて、自分の苦手なところが確認できた。相手のニーズにできるだけ合わせながらコーディネートを進めていけるようになりたい。
- ・先輩のコーディネートの仕方を学ぶことができてよかった。チラシを見て、少ない情報の中でも相手に伝えられるようになりたいと思った。
- ・社会問題について考えてみることで、自分の知らないことを知ることができ、これから社会問題にアンテナを張っていこうという意欲も出た。
- ・社会課題とこんなにも徹底的に向き合ったことがなかったので、貴重な経験になった。

○まとめワーク

- ・2日間のワークを振り返ることができ、今回の合宿で成長できた点に分かって良かった。
- ・自分が達成できたことを確認できたし、仲間の大切さにも気づくことができた。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・リハーサルをしたのが合宿1週間前で、修正や追加の準備物の作成を行う期間を十分に取れなかった。より良いワークづくりができるように、計画的に余裕を持って準備を進めていく必要がある。
- ・例年とは違い、キャンパス内で行うことになったが、備品をすぐにセンターから持ってくるなど利点はあった。しかし、宿泊ではなかった分、自由に交流できる時間が短くなってしまった。ただ、立食パーティ形式での交流会により、懇親を図れたのは良かった。
- ・今回、企画メンバー以外の学生スタッフに合宿のタイトルが入った看板作りを協力してもらい、準備の段階からスタッフを巻き込むようにした。今後、準備物の作成をお願いしたり、合宿に参加できないスタッフにリハーサルに参加してもらったりと、企画メンバーだけが準備をするのではなく、他のスタッフも参加できる形をもっと作っていけたら良いのではないかと思う。

5. 経 費

【深草】合宿補助費	50,000円
消耗品費	8,834円
【瀬田】合宿補助費	50,000円
交通費補助	34,380円
消耗品費	9,371円
合計	152,585円

〈報告者：田井 拓暉／玉田 遼河〉



事業名	2018年深草夏合宿 ごろうのなつやすみ ～みんなで作ろう！ひと夏の思い出～（継続企画8年目）
日時	2018年9月13日（木）～9月14日（金）
場所	大阪国際ユースホステル・大阪府羽衣青少年センター
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
参加人数	学生スタッフ37名 コーディネーター1名
企画メンバー (学生スタッフ)	木村太翼（文学2） 上田雄介（政策2） 川村有希（政策2） 佐々木大悟（政策2） 武村祐資（政策2） 樋口大輝（政策2） 西村志穂（政策1） 平尾芽衣（政策1）

1. 経緯・目的

最近の報告書の反省点では、「情報共有不足」という言葉が目立つようになってきている。これは学生スタッフ間のコミュニケーションに問題があるのではないかと考えた。コミュニケーションをとる際に「話し手」は自分の想いを言葉にしないと相手に伝わらない。しかし、話し手だけが工夫や考慮するだけでは情報共有不足は改善されないのではないかと考えた。そこで今回の合宿では今まであまり重点を置いていなかった「聞き手」についても考えていきたい。合宿を通して情報共有不足を改善し、そして学生スタッフがお互いのことをよく知り、また信頼関係をより強固にした上で、学生スタッフ全員が今後の活動を円滑に行えるようにすることを目標とし、以下のことをテーマとして合宿を行った。

- ①お互いのことを考えて助け合う
- ②情報共有について考える
- ③合宿全体を通して交流を深める

2. 概要

〈1日目〉

- 【13：00】 大阪国際ユースホステルに現地集合
- 【13：35】 開会式
- 【14：00】 ワーク1



①神経衰弱

1グループ6人のグループ内で二人一組のペア対抗で神経衰弱を行った。

一対一の状況で、些細なことでも人に伝えることの大切さに焦点を当てたもの。

②お絵かきゲーム

お題の写真に沿った文字だけの情報を与え、お題にどれだけ近づいた絵が描けるかを行った。多数の人に情報を伝えなければならない状況で正しく情報を伝えられるかに着目したワーク。

③セリフあてゲーム

マンガの一コマにあるセリフを空白にし、空白内を自由に想像して発表。様々なとらえ方が出てくる中で「認識のずれ」に気づいてもらう事を狙ったワーク。

- 【17：00】 夕食（BBQ）・交流会
- 【21：00】 入浴

【23：00】 就寝

〈2日目〉

【7：45】 朝食

【9：30】 ワーク2

疑似団体訪問ワーク

グループ内で役割を割り振って、渉外班が行っている団体訪問を参考にしたワークを実施。相手とのやり取りの中での思い込みをなくし、認識のずれを意識付けてもらうためのワーク。

【11：30】 昼食

【13：30】 ワーク3

①企画を知ろうワーク

わからないことをそのままにしないために、南区を題材にした虫食いのプリントの空欄を参加者同士で話し合っ埋めてもらった。

②まとめワーク

二日間を通して学んだ事を振り返りながら、合宿後に活かしてもらうことを前提に「情報共有不足の解消」に向けた4つのテーマのグループに分かれ、テーマに沿って情報共有不足を解消するために必要だと思った事をポストイットに書き出してもらった。その後書き出したことを元にグループ内で目標立てを行い、模造紙に書き記した。模造紙は随時確認できるようにセンターで保管するようにした。

【16：00】 閉会式

【16：30】 終了・解散

3. 参加者の声・得られた効果など

1) 参加者の声

- ・合宿全体を通して、みんなで協力して楽しめる要素が多かったのでワークに取り組みやすかった。
- ・普段話せないような人ともコミュニケーションをとることができた。
- ・夕食・交流会で花火やBBQといった夏らしいことができたので夏休みとしてのよい思い出ができた。
- ・相手に何かを伝えたり、相手から伝えてもらうときの認識のズレをなくせる用に、わからないことはきちんと聞こうと思った。
- ・情報共有するときの自分の態度をもう一度見つめ直そうと思った。

2) 得られた効果

- ・「情報共有」という難しいテーマについて、楽しみながらもテーマに興味を持ち積極的に取り組んでもらうことができた。

- ・「情報共有」の際の自分の行動を振り返り、反省したり、伝え方・聞き方を工夫しようとする姿勢が合宿中や合宿後も多くみられた。
- ・アンケートの結果から、学生スタッフ間での連携の重要性に気づいてもらうことができた。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・どのワークでも「楽しみながら」取り組むことが出来るように工夫をした。このことよって、より学びや思考することが深まったと感じている。「楽しみながら」という要素は、とても重要であると感じた。
- ・各ワークを実施する際、自身の担当外の部分にまで気が回らず、フォローが出来ない場面があった。もう少し視野を広くもって、担当外のフォローを積極的に行おうとすることの重要性を思い知った。
- ・ワーク中に、参加者数人がしばらく待機してもらう時間が発生してしまった。このようなことを失くすためにも、もっと下準備やスケジューリングを詳細に考える必要があった。
- ・“情報共有について考える”というテーマだったのに、コアメンバー同士での情報共有不足が目立った部分があり、伝えたいことの説得力が薄れてしまっている」という指摘を受けた。自分たち自身も合宿の準備から当日までの期間を通して、情報共有の難しさ、それを伝え、体験的に考える難しさを改めて感じた。少しずつでもより良い「情報共有」を行うために、常にそれを意識し、工夫することが必要だと考えている。

5. 経費

宿泊補助費	72,000円
交通費補助	53,090円（当日） 1,000円（下見）
消耗品	1,944円
合計	128,034円

〈報告者：上田 雄介〉



事業名	2018年瀬田夏合宿 本気の夏8回目 ~HOT MY VCS~(継続企画8年目)
日時	2018年9月2日(日)~9月3日(月)1泊2日
場所	近江希望ヶ丘ユースホステル(滋賀県野洲市)
実施主体	ボランティア・NPO活動センター(瀬田)
参加人数	学生スタッフ36名 コーディネーター1名
企画メンバー(学生スタッフ)	橋本昌尚(農学3) 頼田翔平(理工2) 田井拓暉(社会2) 正中菜帆(社会2) 大屋晴太郎(農学1)

1. 経緯・目的

センターでは、企画への参加者が昨年と比べると減少傾向にあり、活動に対する意識の再確認をしなければならないという課題をかかえている。また、日ごろの活動の中で、上回生と新学生スタッフ、または新学生スタッフ同士で交流する機会が十分でなかった。そのため、この合宿を通して交流する場を多く設け、お互いを知り、これからの活動で協力し合える深い関係を築く必要性が出てきていた。そこで夏合宿では、以下の3つのことを目的として合宿を行った。

- ・今後の活動を円滑にするため、一泊二日の合宿を通して関係性を深める。
- ・後期から多様な企画や事業が始まるため、ミーティングの進め方や伝える力など、これからの活動に必要なスキルや知識を身に付ける。
- ・学生スタッフの魅力について考え、自発性を高める。

2. 概要

〈1日目〉

- 12:00 野洲駅集合
送迎バスにてユースホステルに移動
- 12:30 開会式
- 13:00 ワークショップ「聴き上手」
(コミュニケーションワーク)
日頃意識されにくい「聴く」ということに焦点を当てて講義を行った。その後、講義内容をふまえて話す側と聴く側に役割を分けてフリートークを行い、お互いの傾聴力を評価し合った。
- 15:10 ワークショップ「企画合同説明会」
(知識UPワーク)
企画の理解を深めることを目的とし、各企画メンバーが新学生スタッ

フや企画に入っていない人に向けて、自分たちの企画の魅力や年間スケジュールを説明するブースを開いてもらった。

- 16:00 夕食、入浴
20:30 交流会
23:00 就寝



〈2日目〉

- 8:00 朝食
- 9:00 ワークショップ「コーデ大会」
(スキルUPワーク)
コーディネートの基本を学ぶため、コーディネーター経験者と新スタッフがペアになり、チェックシートで評価しながら来室者役と学生スタッフ役に分かれ、コーディネートを行った。
- 10:00 ワークショップ「学スタ&MT」
(スキルUPワーク)
ミーティングを円滑に進めるためにミーティングの中で自分の役割を意識することを目的として、役割についての解説と模擬ミーティングを行った。
- 12:00 昼食
- 13:00 ワークショップ「まとめワーク」
この二日間で得たことを振り返り、後期で活かしてもらうことを目的に、まず、この二日間で何を学んだ

か個人で振り返りを行った。その後、後期でどのようなことを行っていくか個人で目標を立て、多くの学生スタッフと共有することでこれからの活動への勢い付けを行った。決めた目標はグループで一枚の色紙にまとめてセンターに掲示することで、いつでも目標を確認できるようにした。

14:00 閉会式

15:00 終了



3. 参加者の声・得られた効果など

1) 参加者の声

- ・普段意識していない事に気づけた。聴くことの大事さを学ぶことができた。
- ・企画の内容をよく知らなかったために企画に参加しようと思っていなかったが、説明を聴いてから、2つも参加したいと思える企画があった。
- ・普段話さない先輩や同回生と話せてよかった。
- ・普段ミーティングで聞く立場が多いため意識していなかったが、ミーティングの色々な役割やポイントを押さえられた。
- ・自分のコーディネートで抜けている部分など、いくつか細かい点について気づく事ができてよかった。
- ・色紙に書くことで、気が引き締まる。一体感がでてよかった。

2) 得られた効果

全体として異なる学年やあまり話したことのない学生スタッフの交流を多く設けたため、お

互いをより深く知ることができた。また、ミーティングで役に立つスキルや聴くことの大きさ、企画の内容についても深く知ってもらうことができた。二日間の合宿を通し、各学生スタッフの後期からの目標を決めることもできた。以上から、この合宿の目的はおおよそ達成できたと考えている。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・準備期間中、注意深さが欠けていたため、当日、資料やアンケートの抜けなどがあった。このことを改善するために、担当でない役割のことも共有をよりしっかり行い、先を見据えて準備していくことや、各ワークショップの目的や目標を企画メンバー同士で共有する必要があると感じた。
- ・アンケート結果から、スキルUPのワークで、ミーティングやコーディネートを上手く出来なかったという学生スタッフが多かったため、先輩から後輩へアドバイスの時間をもっと多くとるべきだったと考えた。
- ・ワークショップを通して、企画に参加している学生スタッフの年間のスケジュールや魅力を、企画に参加していない学生スタッフ、新学生スタッフに知ってもらうことができた。また、企画について詳しく知れたという意見が多かったため合宿以外での企画の紹介の仕方を考え直す必要があると考えた。
- ・夏合宿を通して、普段話さない学生スタッフとの交流のきっかけができた。また、後期に向けての目標をいつでも確認できるようにすることで、学生スタッフのモチベーションを上げるきっかけになった。

5. 経費

宿泊費補助	66,000円
交通費補助（7割上限2,000円）	11,540円
消耗品（用紙、テープなど）	2,753円
合計	80,293円

〈報告者：頼田 翔平〉

事業名	春合宿2018（深草）（継続企画8年目）
日時	2019年2月26日（火）～2月27日（水） 1泊2日
場所	京都府立るり溪少年自然の家
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
参加人数	学生スタッフ27名、コーディネーター1名
企画メンバー （学生スタッフ）	木村太翼（文学2） 竹本智紀（法学2） 吉田 樹（法学2） 佐々木大悟（政策2） 神田瑞季（経済1） 西野亜優（経済1） 松尾宗次朗（経済1） 森清文聡（法学1） 世田丈貴（法学1） 福島麻斗（政策1）

1. 経緯・目的

現在、学生スタッフの主な活動は「コーディネートシフト」「班活動」「ミーティング」「学生スタッフ企画」である。現状はそれぞれの活動が独立したものであるという意識があり、つながりはあまり意識されていない。また、学生スタッフ一人ひとり、それぞれの関心の高い活動に対しては積極的に取り組む姿勢がみられるが、そうでない活動に対しては、自ら考えずに指示待ちの受け身になってしまっていることがあった。

今回はこれらの活動のつながりについての理解を深めるとともに、関心の薄い活動をどうすれば積極的に取り組めるのかを自ら考え、次年度の活動に活かすことを目的とする。

2. 概要

以下の3つのワークショップを実施した。

- ワーク①…2018年度の活動を振り返るとともに、センターの目的について考えた。
ワーク②…過去と実績を知り、これからの活動や、センターの理想について語り合った。
ワーク③…理想を実現するため、これからの活動を行うにあたって何をすべきか、どのような取り組みができるのかを具体的に考えた。

3. 参加者の声・得られた効果など

「自分の普段の活動や、やってきたことを振り返る良いきっかけだった。」「それぞれのワークでやりがいを感じた。」「3つのワークでまとまりがあって、全体的にスムーズな流れで行うことができていた。」「これからの活動を具体的に考えるいい機会となった」といった声が多くあった。

このことから今回の合宿では、次年度に向け、参加者の活動に対するモチベーションをあげることができたと考えている。また、ワーク内で参加者の積極的な発言や行動が見て取れた。

4. 反省点



今回の春合宿では宿泊施設や交通手段など、事務的な面を円滑に進めることができず、ワークなどの準備に影響を与えてしまった。また、バス移動は車酔いや地域によってはあまり適していないので配慮が必要だった。

5. 学んだこと・今後の課題

今回の合宿ではそれぞれのワークのつながりを重視し、3つで1つのワークという形で行った。そうすることで、段階を踏まえながら課題について考えやすい環境で行うことができた。また、全体を通してスムーズに進行することができることや、学生スタッフ一人ひとりに理想とするセンターの形や目標があることがわかった。

今後は今回挙げた目標や具体的な活動などのサポートを全員でできるような環境づくりや、実行に向けた取り組みを行っていくことが今後の課題である。

6. 経費

宿泊補助費	@2,000円×24名	= 48,000円
貸し切りバス代	1台	88,560円
消耗品		236円
合計		136,796円

（報告者：木村 太翼）

事業名	瀬田春合宿心機一転！ ～やりたいことに猪突猛進～（継続企画8年目）
日時	2019年3月12日（火）～3月13日（水）1泊2日
場所	近江希望が丘ユースホステル（滋賀県野洲市）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
参加人数	学生スタッフ27名 コーディネーター1名
企画メンバー （学生スタッフ）	頼田翔平（理工2） 正中菜帆（社会2） 松本優甫（理工1） 大屋晴太郎（農学1） 橋本奈津子（農学1）

1. 経緯・目的

今年度のボランティア・NPO 活動センター瀬田キャンパスの学生スタッフは、和気藹々と活動を行っていたものの、メリハリのない行動も多く見受けられ、オンとオフの切り替えができていない現状があった。ひとりひとり力を持っているにも関わらず、その力をうまく発揮しきれていないと感じている。よって以下の二つを目的として、春合宿を行う。

- ・一人ひとりが何のために学生スタッフとして活動しているか目的を再認識し、活動に対する意識を改めていく。
- ・自発性と積極性の向上を目指し、来年度の活動をより一層意欲的に行えるようにする。



と、センターの魅力や課題、学生スタッフとしての自身の活動などについて自由に話した。

18：00 夕食

21：00 交流会

23：00 就寝

2. 概要

〈1日目〉

13：00 アイスブレイク「即興プレゼン」

13：30 振り返りワーク

「振り返ればなっつんがいる」

今年度の自分自身の活動を振り返り、できたことや今後の課題を明確にすることで、活動に対する意識を改めることを目的として行った。できたことや今後の課題はグループで共有し、課題に関しては「春合宿では特に〇〇を意識して取り組みます」という形式で紙に書き出し全体で共有した。

14：00 意識改善ワーク「そこまで言って委員会 VC」

ボランティア・NPO 活動センターの在り方や学生スタッフとしての在り方などを話し合うことで、活動に対する意識を改めることを目的として行った。ワーク参加者全員（25名）が輪になりボールを持っている人が話すことができるというルールのも

〈2日目〉

7：30 起床

8：00 朝食

9：00 ワーク作成「わくわく！ワークワーク★」

ワーク作りを通して自分の力を発揮し自信を持ってもらうことで、来年度、より一層意欲的に活動することを目的として行った。今のボランティア・NPO 活動センターの課題にアプローチするようなワークをグループで作成した。

12：00 昼食

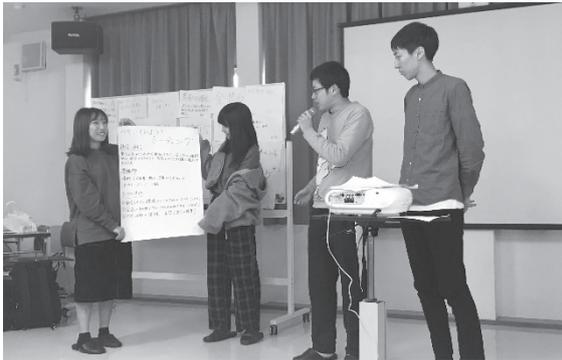
13：00 ワーク作成「わくわく！ワークワーク★続き」各グループで作成したワークを全体で共有した。その後ワーク作りをする中でグループのメンバーのよかった所をポストイットに書き出しグループで共有した。

14：00 まとめワーク「うたこの部屋」

二日間のワークを振り返りグループで共有した。その後来年度前期の目

標を考え紙に書き出し全体で共有した。

15:00 閉会式 解散



3. 参加者の声・得られた効果など

- ・メンバーの良かった点を言い合うワークをする中で、自分の苦手なことが他の人の得意なことだとわかった。自分の苦手なところに目を向けがちだったが、自分のできるところをのばして周りの人を助けることで、お互いに協力し合えるということに気がついた。
- ・今回の合宿では色んな人の意見や考えを知ることができた。今まで話すことの少なかった人と関わることができたので、今後何かあれば手伝ってもらったり自分が力になれるところは協力し合えると思う。
- ・今回の合宿で自分が成長できたと実感できた。他の人の意見を知るということを大切にしようと思った。そのために色んな人と話し、他の人からしか得られない意見をもっと知ろうと思った。
- ・各ワークを通して、学生スタッフとしての活動で、この1年でよくできたこと、あまりできなかったことをそれぞれ個人が把握することができ、来年度の目標も立てることができた。来年度、意欲的に活動できるきっかけになったと考える。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・今回はワークを個々で考えるのではなく、コアメンバー全員で考え、合宿全体の流れやワークの意味を大切にしながら全員で構成した。参加者が何のためのワークなのかを考え

ながら取り組むことができたので、今後、活かしていきたい。

- ・今回は参加者が主体となって行うワークがあったため、実際にワークをやってみないとその後の展開がどうなるか分からない中で、準備、リハーサルを行っていた。実際、当日はシュミレーション通りにはいかず、ワークが円滑に進まない場面があった。ワークがどういう風に進んでいくかというイメージをもっとしっかり膨らませておけば良かったと思う。
- ・参加者の人は企画メンバーが準備したワークに初めて参加する。ワークの説明では、誰が聞いても理解できるよう工夫をする必要があった。
- ・今回の合宿ではひとつひとつのワークのつながりを意識していた。また、合宿やワークの趣旨、目的の共有を頻繁に行っていたため、全体を通してまとまりのある合宿にすることができた。
- ・当日、ワークに必要な備品を持って行くのを忘れるということがあった。準備物を前日にしっかり確認する必要があった。

5. 経費

宿泊費補助	50,000円
交通費補助（7割上限2,000円）	9,960円
消耗品（模造紙、付せん）	570円
合計	60,530円

〈報告者：正中 菜帆、大屋 晴太郎〉



セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2019
日時	2019年2月12日（火）～13日（水）1泊2日
場所	セミナー会場：大阪市立青少年文化創造ステーション KOKO PLAZA 宿泊会場：新大阪ユースホステル
実施主体	NPO 法人ユースビジョン
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生で、2019年度運営の中核を担うリーダー層 合計32名（11大学・キャンパス）
本学参加人数	深草学生スタッフ4名、瀬田学生スタッフ4名

1. 目的

このセミナーは、大学ボランティアセンターの学生スタッフのうち、次年度の活動を担うリーダーたちが「リーダーとは何か」についてもう一度深く考え、組織の運営を学び、よりよい活動を行うことを目的として毎年実施されています。

ボランティア・NPO 活動センターからも代替わり後の正副代表が、他大学の学生スタッフとの意見交換や議論を通して視野を広げるために参加しました。

2. セミナー概要

〈1日目〉

- ①アイスブレイク（センター自己紹介）
- ②全体会1「リーダーとは？リーダーシップとは」
- ③全体会2「合意形成とは？」
- ④交流会

〈2日目〉

- ①全体会3「ミーティング、活動計画づくり」
- ②個人／大学別セミナーふりかえり
- ③大学別「セミナー後の行動計画づくり」
- ④全体共有「セミナー後の行動計画」
- ⑤集合写真撮影、セミナー終了

3. 参加者感想

吉田 樹

（法学部 法律学科 2年次生）

今回のリーダーセミナーは、私にとって『リーダーに必要とされることは何か』を気付かせてくれる機会となりました。また、2日間のワークを通して、合意形成の難しさ、話し合える場の大切さを改めて感じられました。私自身もリーダーという立場にしながら、人とコミュニケーションを取るのがあまり得意ではありません。だからこそ、コミュニケーションを取る



のが苦手な人たちの代表として、『話し合える場』をつくる役割を担っていこうと思います。

また、組織づくりに関しては、正直まだ自分の中で明白な答えは出ていません。良い組織とは何なのか、良い関係とは何なのかは、講師や先輩方に聞くという方法もありますが、自分たちは自分たちが思う『良い組織』を皆で考え続けたいと思います。

短い間ではありましたが、『気づき』の多い2日間となりました。これからセンターへ還元していこうと思っています。

川村 有希

（政策学部 政策学科 2年次生）

私は、このリーダーセミナーを通して自分たちのセンターに足りないものを見つける事が出来ました。上の立場になった今、皆を引っ張って行くリーダーという存在とは何か。また、ミーティングが現在のままだと真のミーティングになっていないという気づき。リーダーシップやミーティングについてのワークを行う際、他大学の人の意見を聞いたことが一番の学びでした。これら2つのワークの中で立場も考え方も違う人の意見について耳を傾けたり、自分の考えを発表することを通して、様々な物事の見方があると気づけたのです。このように複数人で話さなければそのような気づきは生まれません。当たり前のような話し合いや意見を聞き合

う環境が自分のセンターには足りていないと感じました。

この2日間は、自分たちの活動を見つめ直す期間でもありました。代表との今後の方針について意思統一ができた場でもあったので、学んだことを今後の活動に向けて頑張っていきたいです。

世田 文貴

(法学部 法律学科 1年次生)

リーダーセミナーに参加して、今後、活動していく上で大切なことを多く学びました。リーダーとは何か、話し合いで重要なことは何か、このようなワークを通して持ち帰って試してみたいことを発見することができました。また、他大学のボラセンの学生スタッフと交流する機会が十分にあり、様々な情報を交換し合いお互いの意識を高めることもできました。これからのことを考えると不安なことも多くあったのですが、色々な人と出会い、語り合うことで、この先険しい壁におつかることもあるだろうけれど、諦めず頑張っていきたいと思えるようになりました。

自分は回生のリーダーなのだと思えて自覚するととてもいい経験になったので、リーダーセミナーで学んだことをこれから活かして、最善を尽くして精進していきたいと思います。

西村 志穂

(政策学部 政策学科 1年次生)

私はリーダーセミナーで「組織・グループにおけるリーダーの役割」と「よい会議について」の2つのことについて学びました。前者では、リーダーはメンバーが適時リーダーシップを発揮するのを促進したり、メンバーのフォローをしていくことで組織の目標達成やメンバーの成長に繋げること、T(task)機能・M(maintenance)機能・I機能(individual behavior)の3つのリーダーシップ機能を維持することの大切さを知りました。

後者では、「会議」にもいくつかのタイプがあり、用途によってうまく使い分けることの必要性や、どのタイプの会議でも参加者全員が納得して物事を決めることが理想とされており、そのためにもまずは会議の空間準備にこだわるのが大切だと学びました。

これから私たち1回生は、企画の責任者として前に立ち会議を進行することが増えてきます。そのときには今回のリーダーセミナーで学んだことを生かし、よい会議にしていきたいと思っています。



頼田 翔平

(理工学部 環境ソリューション工学科 2年次生)

今回のセミナーを通して、合意形成をするメリット、合意形成のできにくい状況でのコツ、また合意形成を図るためのミーティングをする上で大事なことを学びました。他大学の人たちとの交流では、学生スタッフの人数の違いにより運営体制がかなり違うことを知りました。小さな規模で活動されるセンタースタッフの方からの話を通して、少人数で活動するときの良いヒントや気付きを得る事ができました。夜の交流会では、自分たちの組織でやっている特徴的な活動を共有したり、人間関係に関する悩みを話し合うこともでき、もっと一人ひとりの意見や気持ちを大事に活動していきたいと思います。

今回このセミナーに参加したのは昨年度に続き二度目なのですが、前回と参加している学生が変わるので、ワークショップの雰囲気や聞ける話が全く違うものになっています。このセミナーでは、何度でも学ぶことができるのだと思っています。セミナーを通して得た気づきや学びをこれからの活動に役立てていこうと思います。

二木 亮英

(社会学部 現代福祉学科 2年次生)

昨年度に引き続き今年もこのセミナーに参加させてもらいました。改めてリーダーとしての学びを深めることができ、2回生の先輩として参加することができたと思います。

「合意形成」は多くの時間、労力を必要としますが、ミーティングをする上でとても重要な内容です。相手の意見や発言に対して、意見があった場合に否定するように発言してしまうと、チームとして良い方向には向かいません。お互いの意見を尊重し、相手が本当に言いたいこと、その真意を汲み取って活動をするのが大切だということを学びました。ワークショップを通じて気付いたことをその場で実践できたことが、私にとって貴重な経験になりました。今後もこの気付きを大切に実践していきたいです。

東 里音

(社会学部 現代福祉学科 1年次生)

私はこのセミナーに参加したことで、改めて自分の所属するボランティア・NPO活動センターについて知ることができたと感じます。まず、自分の所属するセンターについて他の人に伝えるために資料を読み、仲間と話をすることで、センターについて改めて見つめ直すことができました。また、他大学のボランティアセンターについて聞くことで、自分達の所属するセンターとの違いを発見し、それぞれのセンターが持つ特徴を見つけることができました。さらに、他の団体や組織を知ることによって、自分達の所属する団体について新しい発見、気付きがあるのだと感じました。雰囲気作りの大切さにも改めて気づくことができました。話し合いをしていて、新しい意見やアイデアが必ずしもより良い意見であるとは限りませんが、大切なことは、どんな意見であろうとまずは出してみよう、伝えてみようと思える雰囲気をつくることだと感じました。

このセミナーのテーマの一つとして挙げられていた、「合意形成」についても、全体の意見をくみ取る大切な要素だと感じますが、大前提として、自分の意見や考えを少数意見だからと躊躇することなく、堂々と発言できる雰囲気があるということが重要なのだと考えます。このセミナーで学んだことを今後の学生スタッフの活動に活かし、さらに学びを深めていきたいと思っています。

大屋 晴太郎

(農学部 食料農業システム学科 1年次生)

今回リーダーセミナーに参加して、ボランティア・NPO活動センターで活動していく上で大切なことをたくさん学びました。その中でも合意形成をするにはどのようにしたら良いのかということが非常にためになりました。組織で活動していると会議などで物事を決定する必要があります。その時、組織のメンバーで話し合っただけで決めなければならないと、人数が多いために多数決によって決めることが多かったのですが、そうすると少数派の意見が活動に反映されなくなってしまいます。これでは本当の意味で、全員の意見が反映されているとは言えないのではないかと私は感じていました。会議をする時、全員が納得して合意がとれるような合意形成について多くの学びがあり、今後、一步引いたところから組織全体を見渡す視野を持って活動をしていきたいです。

また、今回のセミナーで他大学のボランティアセンターの学生と交流することができました。これまでは一つの方法や考えに縛られていたように思いますが、色々な学生から話を聞くことで、組織形態や活動方法などに関して視野を広げることができたと感じています。



4. 経 費

交通費補助 (7割上限2,000円)	深草	4,080円
	瀬田	4,850円
参加費補助 (一人5,000円×8名分)		40,000円
合計		48,930円

〈報告者：吉田 樹／頼田 翔平〉